

新人保健師の個別支援における学び ～個別支援事例レポートの分析から～

A Study of Learning of New Public Health Nurses from Cases of Client Support

種本 香¹⁾, 原田 小夜¹⁾, 安孫子 尚子¹⁾, 福井 美代子²⁾, 西川 純子²⁾
Kaori Tanemoto, Sayo Harada, Shoko Abiko, Miyoko Fukui, Junko Nishikawa

キーワード 新人保健師, 個別支援, 現任教育

Key Words New public health nurses, client support, training and development

抄 録

背景 A県内の行政機関に就職した新任期1年目保健師(以下, 新人保健師)を対象に個別支援能力の育成のための研修を実施している。

目的 新人保健師の個別支援事例レポートから, ①個別・家族についてのアセスメント, ②支援の実施, ③社会資源の活用の3項目の学びを明らかにした。

方法 保健師初任者研修会参加の新人保健師16名の学びについて質的内容分析を行った。

結果および考察 個別・家族支援についてのアセスメントと支援の実施の記述量は多く, 社会資源の活用の記述量は少なかった。

新人保健師は, 対象者を生活者として捉え, 適切に情報収集するための準備の必要性, 支援目標を明確にし, 支援を工夫する必要性を学習していた。

新人保健師は, 家庭訪問前後の上司や先輩への相談により, 保健師の役割を意識させること, 家庭訪問記録の整理において, 社会資源の活用に視点を向けられるような支援が必要である。

結論 新人保健師は, 生活者の視点と支援目標を明確にした支援について学習し, 上司への相談や, 社会資源の活用への学習に支援が必要である。

I. 緒 言

厚生労働省は, 平成24年4月「地域における保健師の保健活動に関する指針」により, 保健師は地域特性を生かした健康なまちづくりの推進を目指して活動することを示した。地域に暮らす人々をつなぐ, まちづくりの基本は個別支援活動であり, 新任期には, 個別支援の技術習得が重要である。平成28年3月に「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～」で自治体保健師の標準的なキャリアラダーが示された。キャリアラダーA-1レベルである新任期の個人及び家族への支援の項目における目標は, 「個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立案できる」「個人及び家

族の多様性や主体性を尊重した支援を, 指導を受けながら実践できる」「支援に必要な資源を把握できる」である。しかし, 新任期保健師は家庭訪問に対する自信がなく(鈴木ら, 2012), 新任期の市町村保健師が最も困難に感じるのは個別援助における「知識や技術の不足」であると指摘しており(山口ら, 2006), 新任期保健師には, 個別から地域へ広い視点を持つ必要性を認識できるような研修が重要である(林, 2014)。

A県では, 県と大学が協働し, 県内の行政機関に就職した新任期1年目保健師を対象に, 個別支援能力を育成するための研修を実施してきた。本調査は, 新任期1年目保健師の個別支援事例レポートから, 学びの内容を明らかにすることを目的とした。

1) 聖泉大学 看護学部 看護学科 School of Nursing, Seisen University

2) 滋賀県健康医療福祉部 健康医療課 Health Medical Division, Health care and Welfare Department, Shiga Prefecture

* E-mail tanemo-k@seisen.ac.jp

Ⅱ. 方 法

1. A 県保健師初任者研修会の概要

A 県は平成21年に「新任保健師の保健活動支援ガイドライン」を作成している。新任期1年目保健師の到達目標は、基本目標を「個別ケースの支援ができ、個別ケースから地域全体へ視点を広げることができる」とし、行動目標は「個別・家族についてのアセスメントに応じた支援を実施することができる」「個別支援における社会資源、社会保障制度を活用することができる」である。新任期1年目保健師は、個別支援事例1例をまとめ、最後にレポートをまとめる中で学びとして記述している。

用語の定義

新人保健師：新任期1年目の行政保健師

2. データ収集方法

本調査で扱うデータは、平成27年度 A 県保健師初任者研修会に参加した新人保健師19名分のレポートである。新人保健師に対し、調査の依頼文、同意書、返信用封筒を配布し、口頭と文書で研究の趣旨を説明し、調査の協力を依頼した。新人保健師から研究の同意が得られた後、個別支援事例レポート作成に協力した新人保健師の上司に文書で説明し、同意書を得られたレポートをデータとした。

本調査のデータは、レポートをまとめる中で学びとして記述している内容である。

3. 分析方法

記述内容を精読し、新人保健師の基本目標「個別ケースの支援ができ、個別ケースから地域全体へ視点を広げることができる」における、行動目標である①個別・家族についてのアセスメント、②支援の実施、③社会資源の活用の3項目に関連する記述部分を項目別に抽出し、質的内容分析を行った。抽出した記述内容を文脈に区切り、データの内容の意味を損なわないように、かつ明瞭になるように要約した。要約した内容をコード化し、コード内容を比較し、意味内容からサブカテゴリを生成した。サブカテゴリの意味内容を比較し、カテゴリを生成した。カテゴリのコード数が全コードに占める割合を求め、各項目に関する学習

内容と記述量を検討した。

記述内容の分類、カテゴリ化の一連の分析にあたっては、共同研究者で繰り返し行い、解釈の偏りを防ぐと共に妥当性の担保に努めた。

4. 倫理的配慮

新人保健師に対し、個別支援事例レポートの使用に際して、事前に匿名化を図り、個人を特定することはなく、研究への参加・協力は自由意思であり、拒否や途中で取り下げる場合も一切の不利益を被らないことを書面と口頭で説明した。また、新人保健師から研究の同意が得られた後、個別支援事例レポート作成に協力した新人保健師の上司に文書で説明し、同意を得た。

なお、本調査は聖泉大学研究倫理委員会の承認を得て（承認番号 015-014, 2016年2月5日承認）実施した。

Ⅲ. 結 果

同意が得られた新人保健師16名（回収率84.2%）の個別支援事例レポートの学びの記述は435コードであった。①個別・家族についてのアセスメントは195コード（44.9%）、②支援の実施は192コード（44.1%）、③社会資源の活用は48コード（11.0%）であった。文中の【 】はカテゴリ、[] はサブカテゴリ、〈 〉はコードを示す。

1. 個別・家族支援についてのアセスメント（表1）

個別・家族支援についてのアセスメントは、【対象者と対象者の生活に関連する情報を把握する】【対象者を偏りなく捉える】【保健師としての支援の在り方を考える】の3カテゴリ、9サブカテゴリ、195コードから構成された。

【対象者と対象者の生活に関連する情報を把握する】は、[対象者自身を把握する][対象者を取り巻く家族を把握する][対象者を取り巻く地域を把握する][他事業での情報を把握する][情報収集の難しさ]の5サブカテゴリ、77コード（17.7%）であった。[対象者自身を把握する]は、〈表情や様子の観察をする〉〈生活面を把握する〉などであった。[対象者を取り巻く家族を把握する]は、〈対象者の支援者として家族を把握する〉〈家族を支援単位として捉える〉などであった。[対

表 1 個別・家族支援についてのアセスメント

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	代表的な記述
対象者と対象者の生活に関連する情報を把握する(77)	対象者自身を把握する(43)	表情や様子の観察をする(5)	・母親の表情から疲れている様子を見て取る ・家庭訪問の中で我が子に愛情を持って接する様子を見る
		身体面の観察をする(2)	・歩きづらさや痛みがあるため転倒する危険性がある ・筋力の維持や向上の大きな変化はない
		生活面を把握する(19)	・どのように生活をしているのかを把握する ・日常生活の中でどのような困りごとがあるかを把握する
		社会面を把握する(3)	・他の利用者との交流や刺激を受けている様子を把握する ・社会的な役割を取り戻しつつあることを把握する
		性格・タイプを把握する(3)	・母自身周囲との関係を築きにくいタイプである ・手助けをしてくれる住民に過度に甘えてしまう傾向がある
		対象者の思いを把握する(7)	・本人・家族がどのような生活を望んでいるのかを把握する ・本人の楽しみを大切にしている
		対象者の全体像を把握する(4)	・どのような人であるのかを把握する ・対象者の全体像を見る
	対象者を取り巻く家族を把握する(14)	対象者の支援者として家族を把握する(5)	・家族から育児の協力が得られているかを把握する ・父が協力するようになった様子がある
		家族を支援単位として捉える(6)	・対象者だけではなく家族全体を含めて関わらねばならない ・個から家族に視点を広げて捉える
		家族員の健康状態を把握する(3)	・母だけでなく、父にも生活習慣病のリスク要因があった
	対象者を取り巻く地域を把握する(11)	対象者が生活する地域を把握する(6)	・地域に少しずつ母を見守る場所が増えていった ・育児をする母の周りの環境に注目
		対象者と地域とのつながりを把握する(5)	・地域とのつながりを把握する必要がある ・地域とのつながりを保つ視点を持つ
	他事業での情報を把握する(6)	他事業での情報を把握する(6)	・健診時に母が父に不満を持ち続けていたことがわかった ・保健師の問診でストレスがあることを知る
	情報収集の難しさ(3)	情報収集の難しさ(3)	・本人の認知力が弱いため情報収集の難しさ ・フォローを拒否している人への情報収集の難しさ
対象者を偏りなく捉える(72)	アセスメントをする中での気づき(32)	情報不足への気づき(5)	・不足している情報が多いことに気づく ・使用しているサービスの情報が不足している
		問題を焦点化してしまうことによる情報の偏りへの気づき(10)	・精神面での負担感について着目が強くなっていた ・知識や支援など不足している部分に焦点をあてていた
		思い込み・先入観による情報の偏りへの気づき(6)	・明るい性格で意欲もあり、初めての場所に行くことが阻害要因になっていたと思わなかった ・利用できる社会資源がほとんど無いと思いこむ
		対象者と保健師の価値観のズレへの気づき(3)	・相談者の当たり前と支援者の当たり前は異なっている ・保健師の支援したい気持ちと母親のニーズは一致しない
		情報収集のための準備の必要性への気づき(6)	・情報収集する視点を自分のなかで明確に持つ ・確認しなければならないことを整理する
		適切なアセスメントのタイミングへの気づき(2)	・早期に情報収集しアセスメントする ・情報収集しその都度アセスメントし直す
	様々な視点から評価する(40)	対象者の知識を評価する(6)	・乳児の発達の理解不足 ・妊娠期の身体の変化や生活上の注意点などの知識が乏しい
		対象者の精神面を評価する(14)	・身体の不調や思うように動かないことが意欲の低下につながる ・本人はさみしいという気持ちや依存心があった
		対象者の力を評価する(20)	・助けが必要なときはSOSを出せる力を持っている ・支援の場に自ら出てくることができる
保健師としての支援の在り方を考える(46)	支援目標を明確にすることの大切さ(17)	ニーズを把握する(3)	・ニーズを正確に把握する ・どこに支援ニーズがあるのかを把握する
		要因を明確にする(3)	・問題の要因を明確にする ・何が原因になっているのかを考える
		支援目的を明確にすることの難しさ(11)	・支援の目的を考える ・どう関わっていけばよいのか悩んだ
	保健師としての支援の方法を考える(29)	対象者の力を引き出す支援の方向性を考える(8)	・本人の要求のままに支援するのではない ・専門職として支援の方向性を考える
		見通しを持った支援の方向性を考える(10)	・対象者が今後どのように病状が進行してゆくかを理解する ・母親に不安や疑問が生じる可能性を考える
		対象者の状況に合わせた支援方法を考える(8)	・対象者の状態や経過に応じた支援を検討する ・いろいろなアプローチを考える
		生活の中に取り入れた支援方法を考える(3)	・普段の生活の中で、予防策を取り組みやすくする方法を考える ・生活の一部となるように支援したい

対象者を取り巻く地域を把握する〕は、〈対象者が生活する地域を把握する〉〈対象者と地域とのつながりを把握する〉であった。〔他事業での情報を把握する〕は乳幼児健康診査などでの情報把握であり、〔情報収集の難しさ〕は正確な情報が得られないことへの困難感であった。

【対象者を偏りなく捉える】は、〔アセスメントをする中での気づき〕〔様々な視点から評価する〕の2サブカテゴリ、72コード(16.6%)であった。〔アセスメントをする中での気づき〕は、問題に

着目することによる〈問題を焦点化してしまうことによる情報の偏りへの気づき〉や、情報に偏りがないように〈情報収集のための準備の必要性への気づき〉などであった。〔様々な視点から評価する〕は、対象者の知識や精神面、支援希求力などであった。

【保健師としての支援の在り方を考える】は、〔支援目標を明確にすることの大切さ〕〔保健師としての支援の方法を考える〕の2サブカテゴリ、46コード(10.6%)であった。〔支援目標を明確にす

ることの大切さ〕は、〈ニーズを把握する〉〈要因を明確にする〉〈支援目的を明確にする〉の難しさであった。〔保健師としての支援の方法を考える〕は、専門職として〈対象者の力を引き出す支援の方向性を考える〉〈見通しを持った支援の方向性を考える〉〈対象者の状況に合わせた支援方法を考える〉〈生活の中に取り入れた支援方

法を考える〉であった。

2. 支援の実施（表2）

支援の実施は、【対象者主体の支援関係を構築する】【対象者と対象者の生活に関連することを確認する】【対象者が自らの力で生活できる支援をする】【対象者の成長を促し、見守る支援をする】

表2 支援の実施

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	代表的な記述
対象者主体の支援関係を構築する(22)	対象者を支援する態度で接する(9)	そばで支える(6)	・対象者の生活に寄り添うことを大切にする ・本人の思いに寄り添う
		対象者を受け止める(3)	・妊婦自身の気持ちを受け入れる ・ありのままを受けとめる姿勢でいる
	対象者の主体性を尊重した支援関係を構築する(13)	対象者を尊重する関係を構築する(3)	・保健師の考えを押し付けるのではない ・本人の気持ちを尊重する
		対象者の主体性を見守る姿勢(4)	・対象者が自ら行動し問題解決していく姿を見届ける ・見守りの姿勢を大切にして関わる
		保健師の立場を明確にして対象者との関係を構築する(6)	・保健師の役割を明確にする ・支援者として関係が構築できた
対象者と対象者の生活に関連することを確認する(65)	対象者の状況を確認する(15)	直接自分の目で見える(7)	・訪問に行き母や兄に会い、表情をみるのが大切 ・直接対面し相手の表情や言動から不安を読み取る
		対象者や家族の思いを傾聴する(5)	・本人・家族の介護負担に関する話を聞く ・傾聴する
		声かけを工夫する(3)	・声かけを工夫して関わる ・母が感情をあらわにしているときの声のかけ方に悩む
	対象者の生活を確認する(13)	生活の様子を確認する(3)	・訪問に行き家庭内の状況を把握すること ・どんな暮らしをしているのか知る
		生活の実際を確認する(8)	・家事能力はどのくらいあるのかを確認する ・習慣や、現在の食生活など生活の実態を把握する
		経済面を確認する(2)	・対象の経済面を確認
	対象者を取り巻く人びとを確認する(16)	協力者を確認する(4)	・周りに協力者はいるのかを聞く ・だれから支援を受けているのかを聞き取る
		家族の協力体制を確認する(7)	・具体的にどのほど支援が得られているのか確認する ・どの程度育児に参加しているのかの聞き取る
		家族の関係性を確認する(2)	・家族の関係性を聞き取る ・家族の状況など関係性を情報収集する
		家族員の健康状態について確認する(3)	・家族の健康状態の情報収集が不足していた
	対象者を取り巻く地域を確認する(12)	対象者を取り巻く地域を確認する(6)	・対象だけでなく、対象をとりまく人も含め、広い視野で支援する ・家族を取り巻く地域をみていくという視点をもちながら関わる
		対象者と地域のつながりを確認する(6)	・対象者が地域とどのようにつながりを持ち生活しているのか知る ・母はどのような支援を受けて子育てをされているのかの聞く
	気がかりになっていることを確認する(9)	気がかりになっていることを確認する(9)	・気になったことのみでの情報収集になっていた ・デイサービスについて何度も尋ねていることが多かった
対象者が自らの力で生活できる支援をする(62)	対象者が生活する力をつける支援をする(19)	自覚を促す支援をする(4)	・対象者が自己の課題として考えられる関わりが必要 ・親としての自覚を持ってもらう
		自立を促す支援をする(10)	・対象者自身が行動できるように支援していく ・対象者が母親として自立していくための関わりが必要
		力を引き出す支援をする(5)	・対象者の持っている力を引き出せるよう支援していく ・自信を持ってもらう
	対象者に合わせた支援をする(23)	対象者の特性に合わせた支援をする(8)	・思いを表出することが難しい母親へ積極的に介入する ・ケースによっては不安を増強させることがある
		対象者の変化に合わせた支援をする(9)	・ゆっくりと時間を掛けて動めていくことが必要 ・日々変化する状況に即した支援をする
		タイムリーな支援をする(6)	・病状の進行に合わせたタイムリーな支援をする ・不安になりやすい時期には早期に対応する
	生活を主軸に置いた支援をする(11)	生活に視点を置いた具体的な保健指導をする(7)	・生活の注意点を伝える ・日常の生活の中で転倒につながりやすいことを伝える
		実現可能な支援をする(4)	・本人の生活パターンに合わせた方法を考える ・対象者に合わせたわかりやすい方法を見つける
	取り巻くものを含めた支援をする(9)	家族を単位とした支援をする(5)	・子育てをしている家族全体として見るのが十分できていなかった ・妊婦だけでなく夫にも支援する
		環境を整える支援をする(4)	・患者・家族が安心できる療養生活をサポートする ・環境を整え、対象者が乗り越えやすくする支援
対象者の成長を促し、見守る支援をする(38)	教育的な関わりを持った支援をする(25)	見通しを持ってもらう支援をする(13)	・病状の進行に伴い起こりうる課題を本人・家族・関係者で共有する ・今後の成長の見通しを持つことができる支援が必要
		必要な知識の理解を促す支援をする(5)	・自分の身体の状態を理解してもらうことが大切 ・相手が理解し納得できるように丁寧に説明する
		多様な情報提供の必要性(5)	・状況に合わせて情報提供をする ・様々な角度から考えた情報を提示する
		家族の力量を向上させる支援をする(2)	・母親に病気の理解を促す関わりをする ・両親が家でできる関わりを伝える
	経過を追うことができる支援をする(11)	継続的な支援をする(6)	・定期的に訪問し、本人・家族の状況確認を行った ・健診や訪問で確認しながら、継続した支援を行う
		対象者の経過を見据えた支援をする(5)	・病状の進行に伴い本人・家族・関係者で援助計画を検討する ・予防的な観点から援助介入する
	1回の支援の重要性(2)	1回の支援の重要性(2)	・相談時間が30分と限られた中で支援する ・1度の訪問を大切にする
チームの一員としての役割(5)		先輩に相談する(3)	・先輩に相談した
		担当者との情報共有(1)	・担当者や情報共有を行う
		記録に残す(1)	・次の確認事項を踏まえ、記録を残す

【チームの一員としての役割】の5カテゴリ、15サブカテゴリ、192コードで構成された。

【対象者主体の支援関係を構築する】は、〔対象者を支援する態度で接する〕〔対象者の主体性を尊重した支援関係を構築する〕の2サブカテゴリ、22コード（5.1%）であった。〔対象者を支援する態度で接する〕は、〈そばで支える〉〈対象者を受け止める〉であった。〔対象者の主体性を尊重した支援関係を構築する〕は、〈対象者を尊重する関係を構築する〉〈対象者の主体性を見守る姿勢〉〈保健師の立場を明確にして対象者との関係を構築する〉であった。

【対象者と対象者の生活に関連することを確認する】は、〔対象者の状況を確認する〕〔対象者の生活を確認する〕〔対象者を取り巻く人びとを確認する〕〔対象者を取り巻く地域を確認する〕〔気がかりになっていることを確認する〕の5サブカテゴリ、65コード（14.9%）であった。〔対象者の状況を確認する〕は、〈直接自分の目で見える〉〈対象者や家族の思いを傾聴する〉などであった。〔対象者の生活を確認する〕は、〈生活の様子を確認する〉〈生活の実際を確認する〉などであった。〔対象者を取り巻く人びとを確認する〕は、〈協力者を確認する〉〈家族の協力体制を確認する〉などであった。〔対象者を取り巻く地域を確認する〕は、〈対象者を取り巻く地域を確認する〉〈対象者と地域のつながりを確認する〉であった。〔気がかりになっていることを確認する〕は、対象者の気になったことを確認していた。

【対象者が自らの力で生活できる支援をする】は、〔対象者が生活する力をつける支援をする〕〔対象者に合わせた支援をする〕〔生活を主軸に置いた支援をする〕〔取り巻くものを含めた支援をする〕の4サブカテゴリ、62コード（14.3%）であった。〔対象者が生活する力をつける支援をする〕は、〈自覚を促す支援をする〉〈自立を促す支援をする〉〈力を引き出す支援をする〉であった。〔対象者に合わせた支援をする〕は、性格や特徴等〈対象者の特性に合わせた支援をする〉、身体的・心理的な状況に応じて〈対象者の変化に合わせた支援をする〉、病状の進行に合わせた〈タイムリーな支援をする〉であった。〔生活を主軸に置いた支援をする〕は、〈生活に視点を置いた具体的な保健指導をする〉〈実現可能な支援をする〉であった。〔取り巻くものを含めた支援をする〕は、〈家族を

単位とした支援する〉〈環境を整える支援をする〉であった。

【対象者の成長を促し、見守る支援をする】は、〔教育的な関わりを持った支援をする〕〔経過を追うことができる支援をする〕〔1回の支援の重要性〕の3サブカテゴリ、38コード（8.7%）であった。〔教育的な関わりを持った支援をする〕は、〈見通しを持ってもらう支援をする〉〈必要な知識の理解を促す支援をする〉などであった。〔経過を追うことができる支援をする〕は、〈継続的な支援をする〉〈対象者の経過を見据えた支援をする〉であった。〔1回の支援の重要性〕は、1回の訪問を大切することであった。

【チームの一員としての役割】は、〔チームの一員としての役割〕の1サブカテゴリで構成され、5コード（1.1%）であった。〔チームの一員としての役割〕は、〈先輩に相談することや〈担当者との情報共有〉と〈記録に残す〉ことであった。

3. 社会資源の活用（表3）

社会資源の活用は、【関係機関と連携する】【支援システムを構築する】【支援システムを運用する】の3カテゴリ、6サブカテゴリ、48コードで構成された。

【関係機関と連携する】は、〔多機関で支える必要性〕〔関係機関同士がつながる〕の2サブカテゴリ、16コード（3.7%）であった。〔多機関で支える必要性〕は、〈一支援機関での限界〉〈多岐にわたる関係機関〉であった。〔関係機関同士がつながる〕は、〈関係機関で情報交換をする〉〈関係機関と連携する〉〈関係機関の調整をする〉であった。

【支援システムを構築する】は、〔各機関を効果的に活用する〕〔支援の方向性を統一する〕〔支援体制を整備する〕の3サブカテゴリ、24コード（5.5%）であった。〔各機関を効果的に活用する〕は、〈関係機関の役割を明確にする〉〈関係機関の強みを明確にする〉であった。〔支援の方向性を統一する〕は、〈対象者支援における関係機関の課題を明確にする〉〈関係機関間で支援目的を共有する〉であった。〔支援体制を整備する〕は、地域の支援体制づくりであった。

【支援システムを運用する】は、〔支援体制を動かす〕の1サブカテゴリ、8コード（1.8%）であった。〔支援体制を動かす〕は、地域での〈支援体

表3 社会資源の活用

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	代表的な記述
関係機関と連携する(16)	多機関で支える必要性(5)	一支援機関での限界(3)	・1つの支援機関だけで支え見守り続けていくことは限界がある ・地域で保健師としてできる支援には限りがある
		多岐にわたる関係機関(2)	・市町保健師、作業所など支援者が多岐にわたる ・関係機関は多岐に渡る
	関係機関同士がつながる(11)	関係機関で情報交換をする(6)	・関係機関との連絡を取り合う ・病院や支援機関が随時情報交換をしていく
		関係機関と連携する(4)	・様々な関係機関や地域での支援者とつながり ・他機関や地域の支援者と連携していくことが重要
		関係機関の調整をする(1)	・必要な介護サービスを調整する
支援システムを構築する(24)	各機関を効果的に活用する(10)	関係機関の役割を明確にする(7)	・関係機関の役割を理解する ・関係者で役割分担を明確にする
		関係機関の強みを明確にする(3)	・関係機関の強みを見る ・関係機関の強みを発揮する
	支援の方向性を統一する(9)	対象者支援における関係機関の課題を明確にする(3)	・ケアマネの負担が大きいことを知る ・レスパイト入院がうまく行っていないことを知る
		関係機関間で支援目的を共有する(6)	・支援の方向性を一緒に検討する ・関係者で介入の目的を明確にする
	支援体制を整備する(5)	支援体制をつくる(5)	・地域の支援体制づくりに関わる ・家族のSOSに気付くことができる体制をつくる
		支援体制を機能させる(2)	・地域が一つのチームとして機能していくことが大切
支援システムを運用する(8)	支援体制を動かす(8)	関係機関へ支援をする(6)	・役割を担ってもらえるように支援してゆく ・必要な部分をサポートする

制を機能させる〉〈関係機関へ支援をする〉であった。

IV. 考 察

各項目の記述量は、個別・家族支援についてのアセスメントが44.9%、支援の実施が44.1%と多かったが、社会資源の活用は11.0%と少なかった。

1) 生活者の視点への気づきと支援

個別・家族支援についてのアセスメントでは、【対象者と対象者の生活に関連する情報を把握する】、支援の実施では、【対象者と対象者の生活に関連することを確認する】の記述量が多かった。新人保健師は対象者を生活者として捉え、対象者の生活情報や家族や取り巻く地域について、対象者と確認することがアセスメントとして重要であると学習していた。佐伯ら（1999）が、経験年数3年未満の保健師は生活者の視点に関する看護アセスメント能力に関する自己評価が最も高いことを報告しており、本調査においても生活者の視点について学習できたと考えられる。

個別・家族支援についてのアセスメントにおいて、【対象者を偏りなく捉える】では、新人保健師は、対象者の課題や問題を焦点化して情報収集していたことに気づき、偏りなく情報を収集する

必要性が学習できたと考える。また、適切に情報収集するための準備の必要性に気づくことができたと考えられる。

2) 保健師の役割と専門性に関する学び

個別・家族支援についてのアセスメントの【保健師としての支援の在り方を考える】では、新人保健師は対象者のニーズ把握や支援目的を明確にする大切さを記述していた。新人保健師はニーズを把握し、課題の背景要因を明確にすることの重要性を再確認し、対象者の力を引き出すこと、長期療養生活支援における見通しをもち、予防の視点を持った計画を立てる等の支援目標を明確にする必要性を学習していた。しかし、具体的な計画立案の難しさがあると推察された。また、支援の実施においては、【対象者が自らの力で生活できる支援をする】の記述が多かった。新人保健師は支援の中で、対象者の生活する力や対象者の性格や特徴、疾病の進行に伴う身体的な変化や不安の訴え等の心理状態に合わせた支援をする中で悩み、工夫する必要性を学習していた。池西ら（2004）は、経験から学んだことを次の実践や自分の自信に繋げる姿勢等、自己のマネジメントの必要性を述べている。事例の振り返りによって、保健師としての支援の在り方を考えることに繋がった。

頭川ら（2003）は、新任保健師は多職種と関

わる際に保健師の役割に悩んだ時は職場の上司や先輩に相談することによって、保健師としての専門性や役割を学んでいると報告している。しかし、本調査では、支援の実施において、【チームの一員としての役割】は5コードと最も記述量が少なく、上司や先輩への相談や情報共有ができていない現状にあることが推察できる。したがって、家庭訪問の前後の上司や先輩に対する「報告・連絡・相談」が重要であり、報告・連絡・相談によって、事例の支援における保健師としての役割を意識させる必要があると考えられた。

3) 社会資源の活用

自治体保健師の標準的なキャリアラダーにおいて、新任期保健師の目標の一つに「支援に必要な資源を把握できる」が挙げられている。しかし、本調査において、社会資源の活用に関連した記述量は11.0%と少なかった。個別・家族支援についてのアセスメントでは、対象者を取り巻く地域を把握する必要性を理解はしているものの、社会資源を活用する必要性について意識できていないことが考えられる。したがって、家庭訪問記録の整理において、ジェノグラムやエコマップを効果的に活用し、社会資源の活用に視点を向けられるような支援が必要である。

栗田ら（2003）は、経験3年目の保健師は、個別事例の問題解決のために地域システムづくりの必要性を理解する力量が低く、力量形成には達成感を得られる指導や多面的な視点からの指導が必要であると指摘している。一部の記述には、支援システムの運用の記述もあり、新人保健師の所属や業務経験等の背景が社会資源の活用に関連していると推察される。新人保健師は、個別の事例から地域ケアシステムづくりに発展させていく学習が必要であり、職場でのOJT、事例検討などを通して、対象者を多面的にとらえ、経験を積むことで、力量形成を促進していくことが重要であると考えられた。

本調査は16名の新人保健師が一事例からまとめたレポート内容の分析であり、新人保健師の学びとして一般化するには限界がある。今後は事例を積み重ね検討していく必要がある。

V. 結 論

新人保健師の個別支援事例レポートから、明らかになった学びの内容は以下の4点であった。

1. 新人保健師は、生活者の視点について学習し、適切に情報収集するための準備の必要性を学んでいた。
2. 新人保健師は、目標を明確にして支援すること、支援をする中で悩み、工夫する必要性を学んでいた。
3. 新人保健師は、上司や先輩への相談や情報共有ができていないため、家庭訪問の前後の報告・連絡・相談が重要である。
4. 新人保健師は社会資源を活用する必要性について意識できておらず、家庭訪問記録の整理において、社会資源の活用に視点を向けられるような支援が必要である。

謝 辞

本調査に協力いただきました新人保健師の皆様ならびに指導者の皆様に深く感謝いたします。

文 献

- 林裕栄, 菅田恵子, 斉藤富美代, 他 (2014) : A 県内行政機関に勤務する新任期保健師の研修ニーズ, 日本看護学会論文集 看護教育, 44, 197-200.
- 池西悦子, 栗田孝子 (2004) : 新任期保健師の問題解決能力の自己評価から見た現任教育についての一考察, 岐阜県立看護大学機能看護学講座 教育と研究, 2 (1), 123-128.
- 厚生労働省 (2011) : 新人看護職員研修ガイドライン～保健師編～
- 厚生労働省 (2013) : 地域における保健師の保健活動について
- 厚生労働省 (2016) : 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～
- 栗田孝子, 池西悦子, 篠田征子 (2004) : 新任期保健師の家庭訪問到達度から現任教育を考える, 日本看護学会論文集 地域看護, 34, 161-163.
- 佐伯和子, 河原田まり子, 羽山美由樹 (1999) : 保健婦の専門職業能力の発達―実践能力の自己評価に関する調査一, 日本公衆衛生雑誌, 46 (9), 779-789.

滋賀県地域保健従事者現任教育検討会 滋賀県健康長
寿課（2014）：滋賀県保健師活動指針

滋賀県保健指導技術高度化支援検討会 滋賀県健康福
祉部健康推進課（2009）：滋賀県新任保健師の保健
活動支援ガイドライン

鈴木知代，佐藤圭子，平井敦美，他（2012）：新任期
保健師の個人・家族支援能力向上のための研修の評
価，聖隷クリストファー大学看護学部紀要，20，11-
20.

山口佳子，塚原洋子（2006）：新任期に市町村保健師
が感じる困難と効果的な対処方法の現状からみた現
任教育のあり方，杏林大学研究報告，23，67-77.

頭川典子，安田貴恵子，御子柴裕子，他：学士課程卒
業後の保健師が新任期に感じる困難と対処状況，長
野県看護大学紀要，5，31-40.